

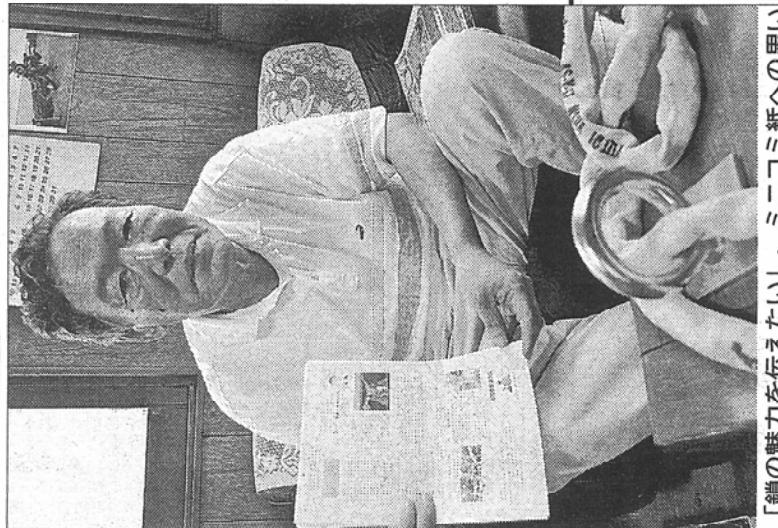
鎖業

姫路・製鎖会社  
衣川良介社長

活性化

へ

情報紙



「鎖の魅力を伝えたい」。ミニコミ紙への思い  
を話す衣川社長=姫路市飾磨区、衣川製鎖工業

姫路市の地場産業・鎖業界の活性化をめざして、中堅メーカーの衣川製鎖工業の衣川良介社長(52)が毎月発行するミニコミ紙が、1百五号を超えた。自ら「鍛冶屋」と名乗り、10年間、産地の歴史や活性化策をつづつてきた。中国製品に押されて、本業の造船向け需要が落ち込む中、「先人の知恵に学んで再生しよう」という熱い想いに満ちている。

(瀬野真紀)

## 切っても切れない関係表現



衣川 実介

神戸新聞の地域経済欄(9面)に  
主に夢通信のこととを書いた記事が  
掲載されました。

20年近くさずかに発行

「バイクを盗まれた」という書き込みから、盗難防止機能を盛り込んだ新製品も生まれた。衣川さんは「調査や発信を通して自分も学び、発見してきました。これからも頑張りたい」と話している。

題して「夢通信」。創刊を外敵の侵入を防ぐために鎖で思い立ったのは、父親の後を港を守っていたという話を継いで社長になった一九八四年。幼いころから、鍼を打つ技術書から水のくみ上げ道具や音や火花、独特のにおいに慣じて使われていた版画を見られ親しかったが、「取引つけた。さらに十九世紀初め先や友人に問われても歴史に英國で鍛造された手作りのや現状がうまく説明できな鎖が現在のものと同型であるかった」。文章が好きだったことも判明した。たこともあり、PRにも役

立つと、八六年に発行を始めた。仕事の合間に縫つて、国内外の文献調べ、専門家を訪ねて全国各地を歩いてきた。業界は、いかにもつなげない船舶を固定する「アンカーチェーン」が主力製品。調べる中で、遠く紀元前の地中海で、

主に仕入れ先や出荷先に四百部ほど配布してきたが、一般にも公開しようと九七年にホームページ「むらの鍛冶屋」を開設した。子どもたちにも分かるように工夫し、アクセス数は十七万件を超えた。

う書き込みから、盗難防止機能を盛り込んだ新製品も生まれた。衣川さんは「調査や発信を通して自分も学び、発見してきました。これからも頑張りたい」と話している。